

《ゼミ活動報告》

【2023年度 元治ゼミ（3年生）活動報告】

元治恵子

2023年度元治ゼミ3年生は、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから〔「東大社研・高卒パネル調査（JLPS-H）wave 1, 2004.3」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）〕の個票データの提供を受け、グループごとに興味あるテーマを設定し、レポートにまとめました。2年生の後期にデータ分析について学んだものの、実際に研究テーマを明らかにするために、大規模データを分析し、結論を導くという過程は、初めての経験であり、途中でくじけそうになったこともあったかと思えます。グループ内のメンバーで協力し、なんとかここに成果を報告できることが出来ました。

1. 親の期待によって子どもの進路先は異なるのか

伊東輝久・小嶺天汰・米村果純

2. 高校卒での就職予定者の内定の有無による意識の違い

大内田柁・西方翔・山田駿一郎

3. 男女の性別役割分業意識の違いによる結婚観・子育て観の差

高橋伊周・横山紅葉

〈謝辞〉

〔二次分析〕に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから〔「東大社研・高卒パネル調査（JLPS-H）wave 1, 2004.3」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）〕の個票データの提供を受けました。心から感謝申し上げます。

親の期待によって子どもの進路先は異なるのか

伊東輝久・小嶺天汰・米村果純

1.はじめに

子どもの進路選択は、自分にあった学力や学校の雰囲気など様々な理由によって決定される。その様々な理由の1つとして親による関与が子どもの進路先に影響を与えているのではないかと考えられる。そこで私たちのグループは、親の期待によって子どもの進路先は異なるのかという問いを立て、先行研究から得られる知見を元にして立てた問いに変化が見られるのか、見られないのか、その実態について明らかにしていく。

2.先行研究の検討と課題

奥村、森田、青木（2019）では、進路選択の際に親が励ましたり、受容的・共感的に関わることで、親子関係が良好なものとなったり、進路決定自己効力感の高さに繋がったりすることが示されている。また、進路選択における親関与は親への依存と服従を高め、自己決定が服従を抑制する。それは、親関与が高いと認知しているほど、親からの自立は抑制され、自己決定できるほど自立へ繋がることも示されている。この研究からは、親の進路への期待による関与は明らかになっていないが、サポートとしての親の関与と子どもへの影響について明らかになっている。

また、鹿内（2016）によると、進路相談と進路意識の関連性について、進学意識の違いは有意な差が見られたが、相談相手および進学意識に関しては有意な差が見られなかった。

以上の研究から、進路選択においてサポートする親の関与と子どもの進学意識に関連があることが明らかになった。しかし、親の進路への期待による子どもの進路意識の違いについては明らかになっていない。そこで、本稿では、実際に高校生への進路に関するアンケートを元に、親の進路へ

の期待具合がいかにか子どもの進路意識に影響しているか、また、期待によって進路先は異なるのかといった問題を具体的に分析し検討していきたい。

3. 方法

本稿では、序論で述べた仮説を検証するために東京大学社会学科研究所が2004年1月に行った「高校生の生活と進路に関するアンケート」調査のデータを用いた。これは高校生7570人を対象とし調査されている。そのデータから「親が子どもの高校卒業後の進路についてどう期待しているか」、「(今)子どもの高校卒業後の進路について予定していること」の二つを変数として使い、クロス集計で分析した。親の期待度に関する変数は調査で「正社員(公務員)として就職すること」、「専門学校・各種学校に進学すること」、「短期大学に進学すること」、「四年制大学に進学すること」、「フリーターとして生活すること」、「家事を手伝うこと」、「その他」の7項目をそれぞれ「強く望んでいる」、「まあ望んでいる」、「望んでいない」、「わからない」の4つの選択肢から一つ回答している。子どもの進路についての変数は調査で「正社員・公務員として就職が決まった(内定をもらった)」、「正社員・公務員として就職したいがまだ決まっていない(内定をもらっていない)」、「専門学校・各種学校に進学先が決まっている」、「専門学校・各種学校に進学したいが決まっていない」、「短期大学に進学が決まっている」、「短期大学に進学したいが決まっていない」、「四年制大学に進学が決定している」、「四年制大学に進学したいが決まっていない」、「フリーターとして生活する」、「家事の手伝い(自営)をする」、「その他」の11の選択肢から一つだけを回答している。

4. 分析

表1は、「親が子どもに正社員・公務員として

表1 親が子どもに正社員・公務員として就職することを望んでいる程度別子どもの予定進路先

	強く望んでいる	まあ望んでいる	望んでいない	わからない	総計
正社員として内定をもらった(公務員試験を含む)	38.3%(909)	19.7%(335)	1.9%(26)	6.3%(69)	18.7%(1339)
正社員として就職したいが、内定(公務員試験を含む)をまだもらっていない	9.9%(228)	4.5%(80)	0.2%(6)	0.7%(10)	4.5%(324)
専門学校・各種学校:進学先が決まっている	12.3%(273)	18.4%(297)	18.1%(313)	23.0%(245)	17.1%(1128)
専門学校・各種学校:進学先が決まっていない	1.9%(38)	3.4%(56)	2.8%(46)	3.6%(42)	2.8%(182)
短大:進学先が決まっている	3.8%(87)	7.7%(128)	8.9%(150)	9.4%(100)	7.0%(465)
短大:進学先がきまっていない	1.3%(28)	1.2%(23)	1.1%(27)	2.4%(33)	1.4%(111)
4年生大学:進学先が決まっている	14.5%(301)	18.2%(273)	34.5%(532)	26.8%(264)	22.8%(1370)
4年生大学:進学先が決まっていない	14.0%(302)	21.5%(336)	31.1%(552)	24.0%(272)	22.1%(1462)
フリーター(進学でも就職でもなくアルバイトやパートで生活すること)	2.2%(43)	3.6%(56)	0.7%(10)	1.7%(23)	2.1%(132)
家事手伝い(自営)	0.5%(10)	0.2%(2)	0.5%(9)	0.2%(2)	0.4%(23)
その他(具体的に)	0.6%(11)	0.9%(13)	0.3%(3)	1.0%(10)	0.7%(37)
卒業後どうするか全く決めていない	0.7%(17)	0.8%(14)	0.0%(1)	0.8%(9)	0.6%(41)
総計	100.0%(2247)	100.0%(1613)	100.0%(1675)	100.0%(1079)	100.0%(6614)

就職することを望んでいる」と「子どもの予定進路」を示したものである。「親が子どもに正社員・公務員として就職すること」を「強く望む」(期待している)と、正社員・公務員の内定をもらっている割合が38.3%と、選択肢にある子どもの進学先の中で一番多い。親が「まあ望んでいる」場合も19.7%と子どもの進路は「四年制大学だが進学先は未定」の次に多い結果となった。また、正社員・公務員の内定はまだもらってなくても、

親が「望んでいない」、「わからない」の割合より望んでいる方が多いことから、就職に関して子どもの進路は親の期待に沿っていると言える。そして「親が子どもに正社員・公務員として就職」することを「望んでいない」、「わからない」と答えた人の多くは、別の進路、特に四年制大学・専門学校に進学したいと答えていることがわかる。

表2は、「親が子どもに専門学校・各種学校に進学することを望んでいる」と「子どもの予定進

表2 親が子どもに専門学校・各種学校に進学することを望んでいる程度別子どもの予定進路先

	強く望んでいる	まあ望んでいる	望んでいない	わからない	総計
正社員として内定をもらった(公務員試験を含む)	3.7%(27)	8.3%(104)	19.5%(690)	23.7%(355)	16.7%(1176)
正社員として就職したいが、内定(公務員試験を含む)をまだもらっていない	0.8%(6)	2.4%(33)	4.3%(159)	5.9%(86)	4.0%(284)
専門学校・各種学校:進学先が決まっている	63.6%(417)	49.7%(585)	2.9%(99)	9.1%(139)	19.2%(1240)
専門学校・各種学校:進学先が決まっていない	13.9%(88)	6.0%(75)	0.3%(8)	1.4%(21)	3.0%(192)
短大:進学先が決まっている	4.2%(22)	5.1%(63)	8.4%(271)	7.5%(108)	7.1%(464)
短大:進学先がきまっていない	1.3%(9)	1.6%(20)	1.4%(56)	1.4%(24)	1.4%(109)
4年生大学:進学先が決まっている	5.9%(34)	12.0%(132)	30.6%(880)	22.2%(297)	22.7%(1343)
4年生大学:進学先が決まっていない	5.2%(38)	11.9%(146)	29.3%(948)	23.4%(320)	22.3%(1452)
フリーター(進学でも就職でもなくアルバイトやパートで生活すること)	0.8%(5)	1.9%(22)	1.7%(55)	3.1%(43)	2.0%(125)
家事手伝い(自営)	0.0%(0)	0.3%(4)	0.5%(15)	0.1%(3)	0.3%(22)
その他(具体的に)	0.0%(0)	0.4%(4)	0.6%(16)	1.2%(16)	0.6%(36)
卒業後どうするか全く決めていない	0.5%(3)	0.4%(7)	0.4%(16)	1.0%(13)	0.6%(39)
総計	100.0%(649)	100.0%(1195)	100.0%(3213)	100.0%(1425)	100.0%(6482)

路」を示したものである。「親が子どもに専門学校・各種学校に進学すること」を「強く望み」、子どもも「専門学校・各種学校に進学する」と答えた割合は63.6%と非常に高く、「専門学校・各種学校に進学するが未定」の割合も合わせると8割弱である。また「まあ望んでいる」場合もその中の

49.7%、未決定も合わせると半数を占める。「親が子どもに専門学校・各種学校に進学すること」を「望んでいない」、「わからない」場合も、表1と同じように子どもはほかの進学先を希望しているようだ。四年制大学と正社員・公務員を希望している割合が高い。

表3 親が子どもに短期大学に進学することを望んでいる程度別子どもの予定進路先

	強く望んでいる	まあ望んでいる	望んでいない	わからない	総計
正社員として内定をもらった(公務員試験を含む)	4.9%(21)	7.5%(62)	18.5%(742)	21.1%(354)	17.0%(1179)
正社員として就職したいが、内定(公務員試験を含む)をまだもらっていない	0.0%(2)	2.3%(23)	4.4%(181)	5.0%(78)	4.0%(284)
専門学校・各種学校:進学先が決まっている	10.4%(40)	20.9%(152)	15.0%(568)	23.0%(353)	17.4%(1113)
専門学校・各種学校:進学先が決まっていない	2.3%(8)	4.4%(32)	2.4%(88)	3.3%(51)	2.9%(179)
短大:進学先が決まっている	62.9%(234)	27.5%(213)	0.9%(30)	2.3%(35)	8.1%(512)
短大:進学先がきまっていない	13.5%(59)	4.0%(40)	0.2%(7)	0.5%(11)	1.5%(117)
4年生大学:進学先が決まっている	2.2%(6)	14.4%(105)	28.0%(931)	20.4%(296)	23.0%(1338)
4年生大学:進学先が決まっていない	2.2%(12)	16.7%(138)	27.1%(985)	19.8%(315)	22.5%(1450)
フリーター(進学でも就職でもなくアルバイトやパートで生活すること)	0.9%(3)	1.8%(14)	2.0%(70)	2.4%(39)	2.0%(126)
家事手伝い(自営)	0.0%(0)	0.1%(1)	0.4%(16)	0.3%(5)	0.3%(22)
その他(具体的に)	0.0%(0)	0.1%(1)	0.7%(21)	1.1%(14)	0.7%(36)
卒業後どうするか全く決めていない	0.6%(2)	0.5%(5)	0.5%(20)	0.8%(12)	0.6%(39)
総計	100.0%(387)	100.0%(786)	100.0%(3659)	100.0%(1563)	100.0%(6359)

表3は、「親が子どもに短期大学に進学することを望んでいる」と「子どもの予定進路先」を示したものである。結果が「親が子どもに専門学校・各種学校に進学することを望んでいる」と共通している部分ことがわかる。「親が子どもに短期大学に進学すること」を「強く望み」、子どもも「短期大学に進学する」と答えた割合は62.9%、未定の場合も合わせると8割弱を占める。しかし「親が子どもに専門学校・各種学校に進学することを望んでいる」と異なる点は、親が「まあ望んでい

る」場合は子どもの「短期大学に進学が決定」している割合に次いで「専門学校に進学」が決定している割合が高い。

表4は、「親が子どもに四年制大学に進学することを望んでいる」と「子どもの予定進路」を示したものである。「親が子どもに四年制大学に進学すること」を「強く望み」、子どもも「四年制大学に進学する」と答えた割合は43.4%、「まあ望んでいる」場合も35.1%とほかの進路先よりも割合が多いことがわかる。また「親が強く望んで

表4 親が子どもに四年制大学に進学することを望んでいる程度別子どもの予定進路先

	強く望んでいる	まあ望んでいる	望んでいない	わからない	総計
正社員として内定をもらった(公務員試験を含む)	1.4%(34)	6.2%(88)	35.8%(705)	29.1%(353)	16.6%(1180)
正社員として就職したいが、内定(公務員試験を含む)をまだもらっていない	0.0%(2)	1.4%(24)	9.0%(180)	6.9%(78)	3.9%(284)
専門学校・各種学校:進学先が決まっている	5.3%(122)	14.7%(181)	26.4%(488)	29.4%(335)	17.2%(1126)
専門学校・各種学校:進学先が決まっていない	1.0%(19)	1.9%(27)	4.3%(77)	4.9%(57)	2.8%(180)
短大:進学先が決まっている	2.7%(59)	7.8%(96)	11.6%(214)	7.9%(97)	7.0%(466)
短大:進学先がきまっていない	0.7%(24)	1.3%(22)	2.1%(42)	2.1%(24)	1.4%(112)
4年生大学:進学先が決まっている	43.4%(931)	35.1%(412)	2.1%(33)	8.9%(100)	24.5%(1476)
4年生大学:進学先が決まっていない	44.5%(1027)	29.8%(399)	2.0%(32)	5.5%(69)	23.1%(1527)
フリーター(進学でも就職でもなくアルバイトやパートで生活すること)	0.3%(6)	0.8%(11)	4.1%(70)	3.4%(39)	2.0%(126)
家事手伝い(自営)	0.0%(2)	0.2%(2)	0.9%(14)	0.2%(4)	0.3%(22)
その他(具体的に)	0.5%(6)	0.7%(6)	0.9%(14)	0.6%(10)	0.6%(36)
卒業後どうするか全く決めていない	0.3%(6)	0.2%(4)	1.0%(19)	1.0%(11)	0.6%(40)
総計	100.0%(2238)	100.0%(1272)	100.0%(1888)	100.0%(1177)	100.0%(6575)

いる」が「四年制大学に進学」が未決定の割合が「四年制大学に進学が決定」した割合と同様に多いのは、四年制大学の入試方法、個々の受験方法の違いが大きく影響したものと予想される。また「親が子どもに四年制大学に進学すること」に「望んでいない」、「わからない」場合、特に「専門学校・各種学校に進学先が決定」の割合に集中している。

表5は、「親が子どもにフリーターとして生活

することを望んでいる」と「子どもの予定進路先」を示したものである。「親が子どもにフリーターとして生活すること」を「強く望む」と「正社員・公務員として内定をもらった」、「四年制大学に進学が決まっている」割合が多くなった。その結果、「子どもがフリーターとして生活すること」を予定している割合が少なく、子どもはフリーターではない進路先を考えていることがわかる。

表6は、「親が子どもに家事の手伝い(自営)

表5 親が子どもにフリーターとして生活することを望んでいる程度別子どもの予定進路先

	強く望んでいる	まあ望んでいる	望んでいない	わからない	総計
正社員として内定をもらった(公務員試験を含む)	39.6%(13)	19.8%(36)	16.1%(877)	19.7%(252)	17.1%(1178)
正社員として就職したいが、内定(公務員試験を含む)をまだもらっていない	1.6%(1)	11.2%(26)	3.4%(185)	5.7%(73)	4.1%(285)
専門学校・各種学校:進学先が決まっている	11.0%(5)	17.5%(38)	17.2%(827)	20.0%(249)	17.7%(1119)
専門学校・各種学校:進学先が決まっていない	0.0%(0)	1.3%(4)	2.8%(132)	3.3%(42)	2.9%(178)
短大:進学先が決まっている	5.7%(2)	6.8%(12)	7.4%(362)	6.7%(84)	7.2%(460)
短大:進学先がきまっていない	0.0%(0)	2.3%(6)	1.4%(86)	1.5%(17)	1.4%(109)
4年生大学:進学先が決まっている	22.4%(7)	7.5%(14)	24.7%(1078)	19.8%(239)	23.1%(1338)
4年生大学:進学先が決まっていない	8.1%(3)	15.3%(28)	24.2%(1172)	19.1%(248)	22.8%(1451)
フリーター(進学でも就職でもなくアルバイトやパートで生活すること)	7.6%(2)	16.2%(30)	1.3%(59)	2.6%(38)	2.1%(129)
家事手伝い(自営)	1.7%(1)	0.9%(2)	0.3%(15)	0.4%(4)	0.3%(22)
その他(具体的に)	2.2%(1)	0.8%(2)	0.7%(24)	0.4%(8)	0.6%(36)
卒業後どうするか全く決めていない	0.0%(0)	0.5%(2)	0.5%(26)	0.9%(12)	0.6%(40)
総計	100.0%(35)	100.0%(200)	100.0%(4843)	100.0%(1266)	100.0%(6344)

をすることを望んでいる」と「子どもの予定進路先」「親が子どもに家事の手伝い(自営)」を「強く望む」と親の期待通りではなく、「正社員・公務員として内定が決まっている」割合が高い。これは、家の手伝いを金銭的な面で支える為なのではないかと考える。「望んでいない」、「わからない」場合は、決定・未定問わず「四年制大学に進学」と答えた割合が高い。また、「専門学校・各

種学校に進学」し、進学先が決定している割合、「正社員・公務員として内定が決まっている」も高い。

表7は、「親が子どもにその他の進路を望んでいる」と「子どもの予定進路」を示したものである。「親が子どもにその他の進路を望む」とどの期待度合いでも、総じて会社または学校に就職・進学することが決まっている割合が多い。「四年制大学に進学するが進学先は未定」だけ例外なの

表6 親が子どもに家事の手伝い(自営)をすることを望んでいる程度別子どもの予定進路先

	強く望んでいる	まあ望んでいる	望んでいない	わからない	総計
正社員として内定をもらった(公務員試験を含む)	27.3%(61)	19.6%(202)	15.4%(613)	17.8%(301)	17.1%(1177)
正社員として就職したいが、内定(公務員試験を含む)をまだもらっていない	4.8%(10)	6.0%(59)	3.3%(141)	4.5%(76)	4.1%(286)
専門学校・各種学校:進学先が決まっている	15.8%(33)	19.2%(197)	16.1%(564)	20.4%(322)	17.7%(1116)
専門学校・各種学校:進学先が決まっていない	0.8%(2)	3.6%(36)	2.6%(89)	3.4%(51)	2.9%(178)
短大:進学先が決まっている	11.3%(22)	7.2%(74)	6.8%(239)	7.8%(125)	7.2%(460)
短大:進学先がきまっていない	3.5%(8)	1.6%(17)	1.1%(53)	1.8%(31)	1.4%(109)
4年生大学:進学先が決まっている	17.7%(38)	20.2%(181)	25.5%(821)	20.7%(300)	23.2%(1340)
4年生大学:進学先が決まっていない	12.5%(29)	16.8%(172)	26.6%(941)	19.4%(309)	22.8%(1451)
フリーター(進学でも就職でもなくアルバイトやパートで生活すること)	2.6%(5)	3.7%(32)	1.5%(56)	2.1%(33)	2.0%(126)
家事手伝い(自営)	3.0%(7)	1.2%(12)	0.0%(1)	0.1%(3)	0.3%(23)
その他(具体的に)	0.3%(1)	0.8%(5)	0.6%(16)	0.8%(14)	0.7%(36)
卒業後どうするか全く決めていない	0.4%(1)	0.3%(6)	0.5%(18)	1.1%(15)	0.6%(40)
総計	100.0%(217)	100.0%(993)	100.0%(3552)	100.0%(1580)	100.0%(6342)

は上記でも述べた通り、四年制大学の入試方法、個々の受験方法の違いが大きく影響したと考える。

最後に、全体的に見て子どもは親がどの進路を望んでも、決定・未決定合わせ「四年制大学に進学する」と答えた割合が約4割を占め、やや多いことが分かった。反対に親がどの進路を望んでも、

子どもが進路先として「フリーターとして生活すること」、「家事手伝い(自営)」、「その他」を選ぶことが少ない。また親の強い期待に反して、子どもが異なる進路先を希望していることも伺えた。

5. 結論

表5から親が子どもに対してフリーターになる

表7 親が子どもにその他の進路を望んでいる程度別子どもの予定進路先

	強く望んでいる	まあ望んでいる	望んでいない	わからない	総計
正社員として内定をもらった(公務員試験を含む)	15.9%(16)	22.3%(27)	25.7%(180)	23.8%(315)	23.9%(538)
正社員として就職したいが、内定(公務員試験を含む)をまだもらっていない	0.9%(1)	3.2%(7)	4.9%(40)	5.6%(67)	5.0%(115)
専門学校・各種学校:進学先が決まっている	22.0%(21)	24.8%(31)	17.2%(106)	18.2%(226)	18.4%(384)
専門学校・各種学校:進学先が決まっていない	2.0%(2)	0.8%(2)	1.7%(11)	3.1%(34)	2.5%(49)
短大:進学先が決まっている	4.8%(5)	5.9%(7)	4.0%(34)	6.2%(80)	5.5%(126)
短大:進学先がきまっていない	0.0%(0)	0.7%(2)	1.2%(8)	1.5%(21)	1.3%(31)
4年生大学:進学先が決まっている	22.9%(22)	18.0%(18)	22.8%(138)	18.0%(216)	19.7%(394)
4年生大学:進学先が決まっていない	20.3%(19)	12.7%(15)	20.1%(145)	17.0%(205)	17.8%(384)
フリーター(進学でも就職でもなくアルバイトやパートで生活すること)	4.9%(4)	5.7%(7)	1.3%(10)	3.5%(41)	3.1%(62)
家事手伝い(自営)	1.8%(1)	0.7%(1)	0.4%(4)	0.6%(6)	0.6%(12)
その他(具体的に)	4.7%(4)	4.9%(5)	0.2%(1)	1.1%(11)	1.2%(21)
卒業後どうするか全く決めていない	0.0%(0)	0.4%(1)	0.5%(3)	1.5%(18)	1.0%(22)
総計	100.0%(95)	100.0%(123)	100.0%(680)	100.0%(1240)	100.0%(2138)

ことを強く望む時は、子どもはフリーター以外の違う進路を選ぶ傾向にある。その背景には、子ども側には反発心や見返してやろうという気持ちが強くあり、親が強く望んだフリーター以外の進路を選ぶと予想される。

また、親が専門学校・各種学校に進学することを望んでいない場合は、子どもが短期大学に進学する傾向は弱い。同じ法則で考えるのであれば、親が短期大学に進学することを望んでいない場

合、子どもは専門学校・各種学校に進学する傾向は弱いと考えられる。しかし、親が短期大学に進学することを望んでいない場合だと、専門学校を進路を選ぶ傾向が見られた。これは親と子どもとの間で、短期大学についての考え方にジェネレーションギャップが生まれてしまっているのではないかと予想した。親世代では専門学校より短期大学の方が行く価値が高いとされていた。就職や家庭的なスキルを考えて女性は短期大学に行くべき

という風潮が強い世代である。しかし子ども世代では短期大学よりも専門学校の方が、自分の学びたい分野を重点的に学べることで理解されている。親子間で、短期大学と専門学校についての考え方に大きな差が存在しているのではないか。

分析結果をまとめると、親が「希望している」「まあ希望している」と子どもの進路先が親の希望通りの進路先になる。また、親が「希望していない」「分からない」と子どもは違う進路を選ぶことから、親の期待は子どもの進路先に影響を及ぼすと予想される。

親の期待が子どもの進路先に影響していることが明らかになったが、子どもはなぜその進路を選んだのか個々の細かい理由は明らかになっていないため次回の研究に繋げたい。

〈謝辞〉

〔二次分析〕に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから〔「東大社研・高卒パネル調査（JLPS-H）wave 1, 2004.3」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）〕の個票データの提供を受けました。心から感謝申し上げます。

〈参考文献〉

- ・奥村弥生、森田愛望、青木多寿子、2019、「大学進学時の進路選択における親の関与と進学後の自立および適応との関連」（大学進学時の進路選択における親の関与と進学後の自立および適応との関連（jst.go.jp）2023年5月30日アクセス）。
- ・鹿内啓子、2016、「高校生における進学意識と職業意識および親との関係の関連性」『北星学園大学文学部北星論集第54.1』（鹿内啓子.pdf 2023年5月30日アクセス）。

高校卒での就職予定者の内定の有無による意識の違い

大内田 稔・西方 翔・山田 駿一郎

1.はじめに

今回の研究テーマとして高校卒業後、正社員として就職するにあたり何を重視する傾向にあるのかについて検討する。高卒後の就職の背景として、厚生労働省の『高卒求人数と内定者数』において、平成20年～23年ではリーマンショックの影響により、求人数が20万を下回る時期もあったが、平成24年以降に関しては人手不足の問題や景気回復の影響もあり右肩上がりに増加していき、平成30年には約43万件にまで増加する結果となった。しかし、令和4年に発表された厚生労働省（2022）の調査では、高卒者の3年以内での離職率は35.9%と約3人に1人が会社を辞めてしまう事が明らかとされている。そんな中で高校卒業後に就職しようとする人たちが何を重視するのかをクロス集計表を用いて明らかにしていく。

2.先行研究の知見

ジョブドラフトFes(2021)に会場者した高校生1049人に「高校卒業後に就職しようと思っている理由」としてアンケートを行った結果、上位3つが「早く自立したいため」が42.4%と一番高く、次点で「家庭の経済的理由」が22.4%、「就きたい職業が決まっているため」が17.9%だった。このことから就きたい職業が決まっている、目標があるなどの回答も含め「早く自立したい」、というポジティブな意識が高校生に多く見られている結果になったと考えられる。

3.仮説

先行研究でポジティブな意識を持つ高校生が多く見られた。この結果を踏まえ、高校卒業後、正社員として進路が決まった人と決まっていない人

との間で、重要視している違いが生じているのかという仮説を立てる。

4. 方法

「東大社研・高卒パネル調査 (JLPS-H) Wave 1, 2004.3」を用いて、従属変数:問24_事柄の重要度、独立変数:問3_高校卒業後の進路(内定有り/無し)として各項目でクロス集計表を作成し分析を行った。

5. 分析結果

以下は1月時点における正社員としての内定の有無と各項目の重要度のクロス集計表 (カッコ内は回答数) である。
※無回答を除く

表1は「仕事で成功すること」についてである。内定の有無によって分布に大きな差は見られな

い。また、高卒就職を希望する層であるためか、どちらも9割が「仕事で成功すること」を重要視していることが読み取れる。

表2は「結婚して幸せな家庭生活をおくること」についてである。こちらもまた、内定の有無によって大きく分布に差が生まれることはなかった。正社員として働きたいと考えている生徒は約70%が結婚し、幸せに過ごすことを重要視していることが分かる。

表3は「お金持ちになること」についてである。表1のように内定の有無によって多少の差はみられたが大きな差があるとは言えないだろう。またこちらも内定の有無に関わらず約90%が重要視していることが分かる。

表4は「親友をもつこと」についてである。内

表1		仕事で成功すること			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	56.3	40.0	3.7	100.0(1364)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	52.5	44.5	3	100.0(335)	
総計	55.5(944)	40.8(694)	3.6(61)	100.0(1699)	

表2		結婚して幸せな家庭生活をおくること			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	71.9	21.9	6.2	100.0(1365)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	69.9	24.1	6.0	100.0(336)	
総計	71.5(1216)	22.3(380)	6.2(105)	100.0(1701)	

表3		お金持ちになること			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	40.1	47.4	12.5	100.0(1363)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	43.2	47.9	8.9	100.0(336)	
総計	40.7(692)	47.5(807)	11.8(200)	100.0(1699)	

表4		親友をもつこと			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	86.2	13.0	0.8	100.0(1364)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	84.2	14.6	1.2	100.0(336)	
総計	85.8(1459)	13.3(226)	0.9(15)	100.0(1700)	

いずれも (%)

定の有無による分布の差はほとんど見られない。しかし、「とても重要」だと感じている人が非常に多く、今回の分析では「とても重要」に最も分布が偏っていた。

表5は「人の役に立つこと」についてである。内定の有無による大きな差は見られない。こちらでも表4ほどではないが、分布が偏っている。

表6は「子どもをもつこと」についてである。こちらでもやはり内定の有無による大きな差はない。表2「結婚して幸せな家庭生活をおくること」と比べ、「とても重要」が減り「少し重要」、「重要ではない」が増えている。結婚とくらべ、子どもをもつことを同じように重要であると感じていない層がいることがわかる。

表7は「親や親せきの近くで暮らすこと」につ

いてである。こちらは内定の有無によって6~7%の差が見られた。また今回の分析において、最も「とても重要」が少ない項目であった。

表8は「世の中のさまざまな不平等を無くすために社会活動をする事」についてである。内定の有無による大きな差は見られない。表7のように「少し重要」が最も票を集めている。

表9は「子どもには自分よりも恵まれた条件を与えること」についてである。こちらにおいても内定の有無によって分布に大きな差は見られなかった。

表10は「好きな時間を楽しむ時間をもつこと」についてである。内定の有無による差は見られない。「重要ではない」が1.0%、0.3%と非常に少なく、「重要ではない」が最も少ない項目であった。

表5		人の役に立つこと			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	70.7	27.1	2.1	100.0(1363)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	67.5	29.3	3.3	100.0(335)	
総計	70.1(1190)	27.6(469)	2.3(39)	100.0(1698)	

表6		子どもをもつこと			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	57.5	32.6	10.0	100.0(1364)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	54.6	33.1	12.2	100.0(335)	
総計	56.9(967)	32.7(555)	10.4(177)	100.0(1699)	

表7		親や親せきの近くで暮らすこと			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	9.8	51.4	38.8	100.0(1362)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	9.3	45.1	45.7	100.0(335)	
総計	9.7(165)	50.1(851)	40.1(681)	100.0(1697)	

表8		世の中のさまざまな不平等を無くすために社会活動をする事			
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計	
正社員として内定をもらった	20.0	56.6	23.4	100.0(1363)	
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	17.9	59.1	23.0	100.0(335)	
総計	19.6(332)	57.1(970)	32.3(396)	100.0(1698)	

いずれも (%)

表11は「おやもとを 離れて自立すること」についてである。内定の有無による大きな差は見られなかった。また分布としては、表9と似たものになっている。

表12は「仕事で人に尊敬されること」についてである。内定の有無によって「とても重要」と「重要ではない」に約5%の差が見られた。

最後の表13は「よい教育を受けること」についてである。内定の有無による大きな差は見られなかった。

6. 考察

先行研究で、「早く自立したい」という項目が上位にあったものが、4割にとどまっているが、日本人の性質も考え、真ん中も合わせると約8割の人が自立を求めている。また高卒の人が求めているものとして、自由な時間を楽しみたいというのが多かった。大学に行ってアルバイトをするより、社会人として働いた方が金銭面に余裕が出て、楽しみやすいのではないかと考える人が多くいたのではないかと考えられる。反対に、不平等をなくすために社会活動をするということに重要視している人は2割程度と少ない結果となった。

表9 子どもには自分よりも恵まれた条件を与えること				
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計
正社員として内定をもらった	48.1	42.6	9.4	100.0(1363)
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	49.9	41.5	8.7	100.0(335)
総計	48.4(822)	42.3(719)	9.2(157)	100.0(1698)

表10 好きな時間を楽しむ時間をもつこと				
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計
正社員として内定をもらった	79.8	19.9	1.0	100.0(1364)
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	80.6	19.1	0.3	100.0(335)
総計	79.3(1348)	19.8(336)	0.9(15)	100.0(1699)

表11 親元を離れて自立すること				
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計
正社員として内定をもらった	46.9	46.1	7.0	100.0(1363)
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	44.5	49.6	6.0	100.0(335)
総計	46.4(788)	46.8(794)	6.8(116)	100.0(1698)

表12 仕事で人に尊敬されること				
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計
正社員として内定をもらった	51.6	41.1	7.3	100.0(1364)
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	46.1	40.7	13.2	100.0(334)
総計	50.4(858)	41.1(697)	8.4(143)	100.0(1698)

表13 よい教育を受けること				
	とても重要	少し重要	重要ではない	総計
正社員として内定をもらった	29.0	49.7	21.3	100.0(1363)
正社員として就職したいが内定をまだもらっていない	28.0	52.4	19.6	100.0(332)
総計	28.8(488)	50.2(851)	21.0(356)	100.0(1965)

いずれも (%)

仕事につながるような「不平等をなくすために社会活動する」「仕事で人に尊敬される」という項目の「とても重要」に集まっていないことがわかる。まとめると、高卒で就職する人は、仕事で成功したいなどの仕事のモチベーションより自由になりたい、お金を稼いで遊びたいという楽観的な感情で就職する人が多いのだと感じた。反対に専門職を目指したり、大企業を目指すような職業について考える人たちは、専門学校や一流大学を目指して受験するのだと考察することができた。

〈謝辞〉

〔二次分析〕に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから〔「東大社研・高卒パネル調査（JLPS-H） wave 1, 2004.3」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）〕の個票データの提供を受けました。心から感謝申し上げます。

【参考文献】

- ・東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト、『東大社研・高卒パネル調査（JLPS-H） Wave 1, 2004.3』（<https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/Direct/gaiyo.php?eid=PH010> 2023年5月30日アクセス）。
- ・2023、『令和4年発表 | 高卒3年以内の離職率35.9%！離職率が高い理由と対処法を解説 | 記事一覧 | 高卒採用Lab 高校生採用を科学する』（jinjib.co.jp 2023年5月30日アクセス）。
- ・2020、『（2020年度）高卒採用の基本と現状の課題、これからの展望について | 記事一覧 | 高卒採用Lab 高校生採用を科学する』（jinjib.co.jp 2023年5月30日アクセス）。
- ・2021、『【高校生の就職活動に関するアンケート調査 2021年（7月）】 コロナ禍就職希望の高校生6割「就

職できるか不安」、就職する理由の1位は「早く自立したい」が4割 | 株式会社ジンジブ』（jinjib.co.jp 2023年5月30日アクセス）。

男女の性別役割分業意識の違いによる結婚観・子育て観の差

高橋伊周・横山紅葉

1.はじめに

昨今の日本では男女格差に関する課題が注目され、性別間での格差を是正する取り組みが多く行われている。しかし、この格差の実態を浮き彫りにする主要な指標であるジェンダーギャップ指数において2023年での日本の順位は146か国中125位と先進国の中でも最低レベルの結果となっている。本レポートでは、性別役割分業意識観に着目し男女間の結婚後の仕事と子育てについての意識の差を明らかにすることを目的とする。そして、男女が公平に活躍できる社会について検討する。

2.先行研究の知見

大学生の結婚観、および子育て観について — 自身の被養育体験、父母との関係性、対象関係に着目して — 井梅（2019）によると

①結婚子育てに対する意識尺度の差異の検討（表1）

結婚に対する意識では、「結婚への期待・肯定感」において男性よりも女性のほうが高い数値であり、「結婚に対する不安」は男女に差はあまりなかった。

子育てに対する意識では「子育てに対する期待・肯定感」及び「子育てに対する不安」どちらも女性のほうが高い数値であった。

②将来の仕事と子育てについての意識 (図1・表2)

将来子どもを持った時の仕事に関する意識について

1、子育て専念 2、育休後仕事復帰 3、子供成長後仕事復帰 4、パートナーの意見尊重の4つの選択肢において調査を行った。すると、4の選択肢を選ぶ男性が60%以上であった。しかし、出産は女性が当事者であるため男性がこの選択をするのは当然のことである。そのため、4番を除いた3つの選択肢で男女の違いを検討した。

その結果、2の「育休後、仕事に復帰したい」

は男性が、3の「子どもが大きくなってから仕事に復帰したい」は女性が多く選んでいることがわかった。

「男性は子育てよりも仕事の優先度が高く、女性は仕事よりも子育ての優先度が高い」ということができる。

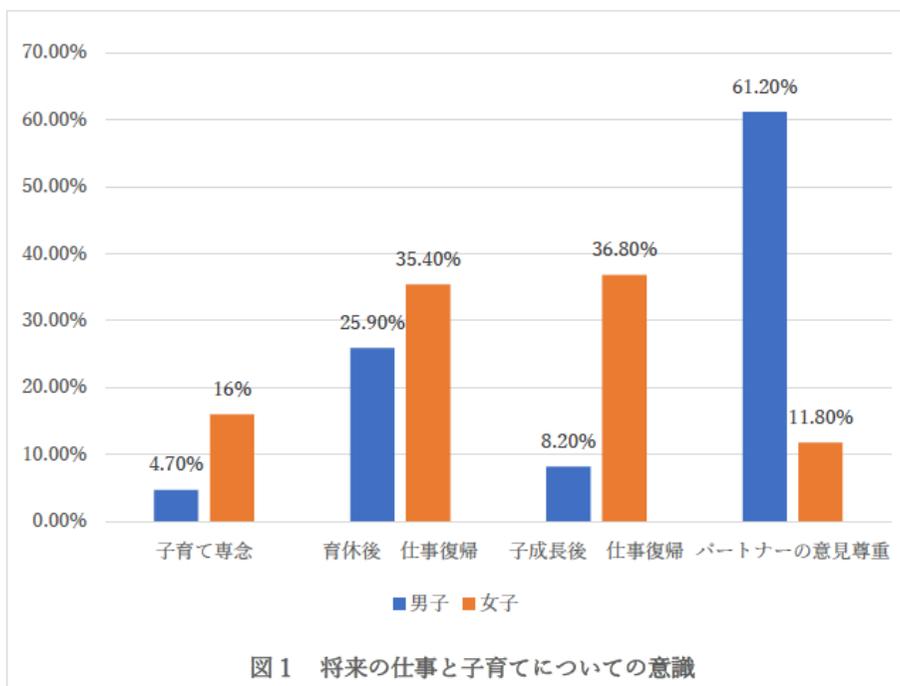
そこで、このような結果になる原因として「男女どちらも性別役割分業意識が高い」という仮説を立てた。

3.方法

東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト

表1：結婚子育てに対する大学生男女の意識

	男子	女子	値の差
結婚に対する意識			
結婚への期待・肯定的	3.99	4.28	2.26
結婚への負担感	4.03	3.90	0.95
子育てに関する意識			
子育てへの期待・肯定的意識	4.32	4.78	3.74
子育てへの不安意識	3.51	3.78	2.38



トによる「高校生の生活と進路に関するアンケート」調査のデータを使用する。2004年1月～3月に高校3年生を対象とした『高校生の生活と進路に関するアンケート』より女性の仕事と結婚、男性の家族のなかでの役割についての質問に対する回答を用い、クロス集計表を作成した。また、個人の属性を表す変数として、性別を用いる。

4.分析結果

はじめに問25「女性の仕事と結婚に関して、あなたはどのようにすることがよいと思いますか。」という問いからみていく。表1より「女性の仕事と結婚に関して、あなたはどのようにすることがよいか」という質問に対し、「子どもができたらいったん仕

事をやめ、子どもに手がかからなくなったら仕事を始める」に男性が38%、女性は49%で最も回答が多かった。次に多かったのが「結婚して子どもができて仕事も続ける」であり、男性23%、女性27%であった。どちらも結婚後女性が専業主婦にならずに仕事を続けることを望んでいることがわかる。対して、「子どもができたら仕事をやめて、家庭に入る」という回答では男性10%、女性5%と回答数は少ないが、女性より男性の方が結婚後女性が仕事をやめて、家庭に入ることを望んでいるということが読み取れる。

次に、男性の家族のなかでの役割について分析する。表4では、「男性が家族を養うべきか」か調査したものである。男女どちらも8割近くが「男

表3

	行ラベル	男性	女性	総計
列ラベル	仕事をせず、結婚して家庭に入る	2%	1%	1%
	結婚したら仕事をやめて、家庭に入る	5%	4%	4%
	子どもができたら仕事をやめて、家庭に入る	10%	5%	8%
	子どもができたらいったん仕事をやめ、子どもに手がかからなくなったら仕事を始める	38%	49%	44%
	結婚して子どもができて仕事も続ける	23%	27%	25%
	結婚しても子どもをつくらず、仕事も続ける	1%	2%	1%
	結婚しないで仕事も続ける	1%	3%	2%
	その他	2%	1%	1%
	わからない	17%	8%	13%
	総計	100%	100%	100%

表4：男性が家族を養うべきだ

性別	男性が家族を養うべきだ				総計
	そう思う とても	そう思う まあ	あまりそう 思わない	思わない そう	
男	37%	50%	11%	3%	100%
女	20%	53%	24%	3%	100%
総計	28%	51%	18%	3%	100%

性が家族を養う」ことに肯定的であり、特に男性が家族を養うことに対して強く意識を持っている。

表5は、「安定した仕事についていない男性」についての男女別の意識の違いをみたものである。男女どちらとも6割が「安定した仕事についていない男性は、結婚できなくてもしかたない」ことに肯定的であり、男女で差異はないといえる。

表6は安定した仕事についていない男性に対する意識について男女ごとに分析したものである。男女どちらとも7～8割は「家事や育児は女性がすべき」とは考えていない。しかし、「そう思わない」の回答では男性が23%、女性が35%という結果となり、女性の方が否定的である。

以上を踏まえて問25「女性の仕事と結婚に関して、あなたはどうすることがよいと思いますか。」と問26「男性の家族のなかでの役割」を用いてク

ロス集計表を作成し、分析した。

表5では問25で「結婚して家庭に入る」と答えた人は問26「男性が家族を養うべきだ」という質問に対して66%が「とてもそう思う」と回答し強く肯定的である。問25で「結婚して家庭に入る」と答えた人は性別役割分業意識が強いと考えられる。

「安定した仕事についていない男性」に対する結婚の意識は問25の「女性の仕事と結婚に関して、あなたはどうすることがよいと思いますか。」という質問の回答に関係なく同じ割合である。男女ともに男性には「家族を養う存在」として安定した収入が求めている。

問25で「結婚して家庭に入る」と答えた人は問26「C.男性は仕事をしているのだから、家事や育児は女性がすべきだ」という質問に対して肯定的な意見の割合が半数いることが分かる。また、

表5：安定した仕事についていない男性は、結婚できなくてもしかたない

性別	安定した仕事についていない男性は、 結婚できなくても仕方ない。				総計
	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わない	
男	20%	42%	30%	8%	100%
女	23%	46%	26%	5%	100%
総計	22%	44%	28%	6%	100%

表6：男性は仕事をしているのだから、家事や育児は女性がすべきだ

性別	男性が仕事をしているのだから、 家事や育児は女性がすべきだ。				総計
	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わ ない	そう 思わない	
男	4%	17%	55%	23%	100%
女	2%	9%	55%	35%	100%
総計	3%	13%	55%	29%	100%

表7：女性の仕事と結婚についての意識と男性が家族を養うことに関する意識

	男性が家族を養うべきだ				総計
	とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
女性の仕事と結婚について					
仕事をせず、結婚して家庭に入る	66%	30%	3%	1%	100%
結婚したら仕事をやめて、家庭に入る	54%	38%	7%	1%	100%
子どもができたなら仕事をやめて、家庭に入る	41%	49%	9%	1%	100%
子どもができたならいったん仕事をやめ、子どもが成長したら仕事をはじめる	28%	54%	15%	2%	100%
結婚して子どもができて仕事をつづける	22%	50%	24%	4%	100%
総計	30%	51%	17%	2%	100%

表8：女性の仕事と結婚についての意識と安定した仕事についていない男性に対する結婚の意識

	安定した仕事についていない男性は、結婚できなくてもしかたない				総計
	とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
女性の仕事と結婚について					
仕事をせず、結婚して家庭に入る	32%	48%	13%	8%	100%
結婚したら仕事をやめて、家庭に入る	32%	42%	21%	4%	100%
子どもができたなら仕事をやめて、家庭に入る	24%	46%	25%	5%	100%
子どもができたならいったん仕事をやめ、子どもが成長したら仕事をはじめる	22%	45%	28%	4%	100%
結婚して子どもができて仕事をつづける	22%	43%	28%	8%	100%
総計	23%	44%	27%	6%	100%

表9：女性の仕事と結婚についての意識と女性が家事と育児をすることに対する意識

女性の仕事と結婚について	男性は仕事をしているのだから、 家事や育児は女性がすべきだ				総計
	とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
仕事をせず、結婚して家庭に入る	21%	32%	30%	17%	100%
結婚したら仕事をやめて、家庭に入る	9%	24%	53%	14%	100%
子どもができたら仕事をやめて、家庭に入る	5%	22%	56%	17%	100%
子どもができたらいったん仕事をやめ、子どもが成長したら仕事をはじめ	2%	12%	58%	28%	100%
結婚して子どもができて仕事をつづける	3%	9%	50%	38%	100%
総計	3%	13%	54%	29%	100%

「子育て専念」の一定数は強い性別役割分業意識がある。

5. 考察

問25問26のクロス集計表等からわかるように「家事や育児を女性がすべきである」に対して肯定的な意見は少なく、男女どちらも女性への性役割観は強くないと読み取ることができる。しかし、問26のB、問25と26のBとクロス表から男女ともに男性が家庭を支えることに肯定的な人の割合が高く、男性への性役割観の存在を読み取ることができた。このような結果になるのは親子間における文化的資産の承継が大きく影響していると考えられる。家庭環境は価値観や理念の形成において重要な要因の一つである。大正・昭和の、男は外で働きに、女は家で家を守るという考え方を持つ家で育った子供は当然、同様の価値観を持ち大人になり、同じように家庭を築く。そうして昔か

らの性役割観が現代まで引き継がれているのである。だが、なぜ女性の性役割観は薄れているのに対し、男性への性役割観が残っているのだろうか。今回はこれを検討していきたい。

〈謝辞〉

〔二次分析〕に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから〔「東大社研・高卒パネル調査（JLPS-H）wave 1, 2004.3」（東京大学社会科学研究所パネル調査プロジェクト）〕の個別データの提供を受けました。心から感謝申し上げます。【参考文献】

・井梅由美子、2019、「大学生の結婚観、および子育て観について —自身の被養育体験、父母との関係性、対象関係に着目して—」、『東京未来大学研究紀要』13：11-21。